

3月号の主な記事： 『ライモンダ』より ヴァリエーション



大森和子と、指導するアンヘル・コレラ Photos: Dance Europe



今月号の日本語ページはFocus On Variationsの要約版です。アンヘル・コレラが、大森和子とエフゲン・ウズレンコフに、『ライモンダ』のパ・ド・ドウから男女それぞれのヴァリエーションを伝授します。

コレラはマドリッドに生まれ、アメリカン・バレエ・シアター (ABT) で活躍。世界中でゲストとしても踊るかたわら、2008年にはスペインに自らコレラ・バレエを立ち上げました。初めて『ライモンダ』を踊ったのはABT時代、指導してくれたイリーナ・コルパコワの他にも、ヌレエフやバリシニコフから直接習った人が大勢いたとのことですが、「いきなり全幕に主演したので、とにかくハードでした！」

大森和子は福島県の、エフゲン・ウズレンコフはウクライナのハリコフの出身。ともに2008年に入団したファースト・ソリストで、プロのダンサーとしては初めての『ライモンダ』です。

Dance Europe (以下DE) : ジャン・ド・プリエンヌの踊りのポイントは？
コレラ (以下AC) : ノーブルさです。たいていのヴァリエーションはアクセントが上向きで、軽やかで明るいんですよね。でもこれは最初の瞬間から床を使って下向きに力を使い、パワーを示します。とにかくプリエを大切に、泰然として踊ること。古典バレエでは、男性のヴァリエーションには音楽や振付にいくつかのパターンがあることが多いですが、これは正しいやり方がはっきり決まっています。たとえば、ピルエット・アン・アチチュードを必ず5番ポジションで終わることが、ジャンのアイデンティティなんです。抜け道がなく正攻法で挑むしかない踊りで、音楽を含めたバレエ全体が、この場面のために構築されているような重みがあります。

振付はプティパのままではなく、チャブキアーニによる改定でしょうね。これはという男性ソロは、すべて彼ですから。プティパは女性の踊りに集中していたんだと思います。バランシンと同じようにね。

DE: 女性のヴァリエーションは、ダンス・クラシックとハンガリーの民族舞踊がみごとに溶け合っています。

AC: ええ、特に上体がとても官能的です。一步踏み出した瞬間から観客を惹きつける強烈なアピールが必要ですが、じつは技術的にはあまり多くは含まれていないんです。全ては腰。ヴァリエーション全体が、腰と肩と足でできています。コルパコワは「観客とのセックスのようなもの」と言っていたんですが、観客全体を一人としてとらえ、その一人に向かって語りかけるんです。大切なのは回転や跳躍ではなく、いかに両腕を開くか。そして静止したまま緊張感を保つこと。それができ

る人が、本物のスター、本物の芸術家になるんです。

ダンサーには、一つのステップから次に移る前に息を吸うように言っています。観客は、ダンサーの呼吸を介して官能性を受け止めるんです。ようするに…性的な快感のようなものですね。古典バレエの中で女性の官能性を味わえる数少ない踊りで、音楽がオーケストラからピアノに変わることも含めて、とても難しいけれど美しい。ぜひとも正しい踊り方を身につけてほしいですが、その上で大切なのは、舞台に上がったら全て忘れて観客とコミュニケーションすること。僕自身、自分がアンヘル・コレラで舞台がはねたらディナーの予定があることなんか忘れて、ジャンにスイッチを切り替えて魔法の世界に入っていくんです。

DE: 次は大森さんにうかがいましょう。ライモンダのヴァリエーションのポイントは？シソヌスでは「音楽を捕まえて」、ポワントから降りるときには「減速して1ミリ1ミリを意識しながら、上体をストレッチ」と指示がありました。

大森: スタイルを守り、観客とつながることが大切です。フットワークもポール・ド・ブラもすべて難しいですが、音楽が気品や官能性を出すのを助けてくれます。シソヌスは、踏み切る瞬間に力を込めることで雰囲気を変えるんです。だからタイミングを逃さないように、と。そしてアンヘル自身も長身のダンサーではなかったから、私のためのツボも分かっているんですね。おかげで巧くいくようになりました。

DE: そしてエフゲン、アンヘルはエレガンスを特に重視していましたね。ピルエット・アン・アチチュードでも、「3回も4回も回らなくていい。1回転して両脚を5番に閉じたら、自然に終われるから」と。

ウズレンコフ: 美しいソロです、そこがポイントなんです。一番難しいのは、プレバレーションをすっきり見せることかな。白いタイツなので、小さなミスも丸見えになってしまいます。タフな踊りですが、音楽が助けてくれます。ジャン役はウクライナの学校時代からの憧れで、友達とスタジオで真似をしたりしていました。大きなジャンプが自分をどンドン運んでいってくれる気がします。特に好きなのはマネージュ。舞台全体を使えるし、進むごとに空を飛んでいるような気分になるので。僕は“飛ぶ”ステップが大好きなんです！（訳: 長野由紀）